

真理大学の学生や友愛会と有意義な交流

青年部部长

早川 はやかわ

友久 ともひさ



真理大学の学生達と(8月23日)

本会青年部は、初めての訪台交流事業となる「第一回・日台青年交流会議」

を去る八月二十一日～二十五日にかけて実施し、大学生など十三名が参加した。永きにわたり連綿と築き上げられてきた日台の絆がいかに深く強いものかを、日本の若者に知らしめるのがこの交流事業の第一の目的である。

八月二十一日(土)

訪台にあたり、私たちを快く受け入れてくれたのは、淡水に風光明媚なキャンパスを有する真理大学である。宿舍の国際交流棟は八月に竣工したばかりで、私たちが入居第一号ということであった。九階の窓からは、遠く淡水河の落日を愛でることができる贅沢な借景である。大学側の歓待に感謝し、

交流事業の成功に意を強くする。

八月二十二日(日)

午前、二二八纪念馆を見学。案内役を買って下さったのは総統府のガイドも務める林玉鳳さん。全島蜂起の発端となった閩タバコ殴打事件をその眼で目撃した林さんは、日本時代をよく知る生き証人でもある。初めて目にする台湾が歩んだ暗い歴史に、皆一様に押し黙ったままだ。無理もない。平和な戦後を安閑と送ってきた日本のすぐ隣に、監獄島があったことなど教科書には載っていない。

「林さんの言葉には、恨みよりも希望を感じた。それが台湾の持つ強さではないだろうか」(古市利雄)

午後は、友愛会との交流会である。

「美しい日本語を守る」ため、台湾人有志が集って月に一度、勉強会を開いており、会員数二百名余りの大所帯である。陳絢暉会長に交流のお願いをした際、私は「台湾の方々が、なぜかくも熱心に美しい日本語を守るために活動されているのか、台湾の祖父母から日本の孫たちへ話していただきたい」と申し上げた。実際、迎えて下さった友愛会の方々の紛うことなく美しい大和言葉に参加者は一様に驚いた様子。

シオランの言葉「祖国とは国語」に準えれば、日本語を自由に操り、寝言を日本語でつぶやく彼らはまさに日本人である。彼らの話す格調高い大和言葉、国を想う心を説き、歴史を語る真摯な眼差しは、日本の若者の目にどう映っただろう。かつてこの島に尽くした先人が遺したものの大きさを教えてくれた友愛会との交流を通じ、日本人としての誇りを感じてくれたならば、なぜ台湾で美しい日本語を守ろうとしているのか、自分なりの答えを見つけ

てくれたと確信している。

八月二十三日(月)

真理大学応用日文科の学生と「日台関係における私たちの役割」と題して日本語で討論会を開く。郭主任教授は挨拶で「台湾と中国は全く別の国ということを理解して下さい」と熱弁を揮われた。台湾の本流は我々の信ずる側にありと意を強くした次第である。

討論会では、やはり同世代の学生たちである。すぐに打ち解けて賑やかな会となり、予定の二時間はあっという間に過ぎてしまった。

「日本語を学んでいる以上、私たちに日台関係に対して責任があります。今日は日本の皆さんに、私たちがこの台湾をどうしていきたいかを聞いていただけて大変うれしいです」(鄭立民・真理大学)。

卒業後、男子学生には兵役が待っている。そもそも台湾は国造りの真最中である。少なからず国との関わりを意識せざるを得ない彼らの政治に対する

関心は総じて高くかつ真面目である。

私を含め、日本側の参加者にとって大変な刺激を受けた有意義な討論会であった。

当夜、蔡焜燦・台北市李登輝之友会長主催の晩餐会にご招待いただく。晩餐会には友愛会の方々も出席していて、日本の青年たちを奮励せんとまず意気軒昂である。

「昨今の日本は落ちぶれたと聞いていたが、この若者たちを見て、まだまだ大丈夫だと安心した」とは、乾杯の音頭をとられた元医師の柯さんの弁である。蔡会長曰く、「柯さんが言った日本は大丈夫と安心した」という言葉をもう一度よく思い出して欲しい。日本の将来は安心だと言ったのは、台湾人だということを」。

日本は日本人だけのものではなく、元日本人のものでもあることを、私たちは忘れてはなるまい。

帰途、大型台風が接近中のため翌日予定されていた李登輝前総統の特別講

義は中止との連絡。残念であるが天候を恨んでも仕方がない。翌日の予定は全て白紙にして宿舍待機とする。

八月二十四日(火)

台北市近郊は台風のために警戒宣言が発令され、終日、宿舍に缶詰め。

八月二十五日(水)

朝方は暴風雨。航空会社によれば天候回復次第、順次飛ばすとのこと。結局、二時間遅れではあったが、無事、全員が帰国することができた。

*

後半は台風禍により、全ての予定が白紙となり消化不良となってしまったが、参加者たちが異口同音に「いい意味で未練が残った。もっと台湾を学んで、もう一度訪れたい」と言ってくれたのが救いである。

初めての交流事業であり、手探りの状態であったが、多くの方々を支えられたの訪台であった。ご支援いただいた方々にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。次第である。